



一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト 2018 年度助成企画募集のご案内

～ ネオニコチノイド系農薬に関する企画 ～

一般にはまだまだあまり知られないまま、お米から果物まで、ときには「減農薬」の切り札として用いられ、シロアリ駆除剤や防虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいるネオニコチノイド系化合物(およびフィプロニル)——。有機リン系農薬の代替物として 1990 年代に開発されて以来、国内外を問わず使用が急拡大するネオニコチノイド系農薬は、その浸透性・残留性・神経毒性から、ミツバチの大量失踪が示唆するように生態系と生物多様性全体を脅かすばかりか、子どもたちの脳の発達にも悪影響をおよぼす可能性が指摘されています。

EU での使用禁止措置をはじめ世界的に研究や規制が進んでいますが、日本では各地で民間の削減努力が生まれつつある一方、全体的にはいまなお規制緩和の方向です。本助成は、予防原則を踏まえて、製薬メーカーの意向や現行の行政判断に左右されない独立の立場から浸透性殺虫剤の影響を検証する調査・研究を支援します。その成果が、浸透性殺虫剤の被害を防ぎ、規制のあり方や一般市民の消費行動を変える働きかけに活かされたり、すでに多くの環境化学物質や放射能汚染と向き合う私たちが、浸透性殺虫剤にどう対処していくべきかを探る公共的な議論を喚起したりと、問題解決に向けた効果的な取り組みに資することを期待しての公募です。ふるってご応募ください！(応募要項など申請書類一式は下記リンクよりどうぞ)

<http://www.actbeyontrust.org/info/3840/>

1. 応募資格: ネオニコチノイド系農薬(およびフィプロニル)に関する問題提起や、使用の削減ないし中止に取り組む個人および団体(ボランティアグループ、NPO/NGO、公益法人、研究機関、生産者など。地域、法人格、活動実績は不問)
2. 助成金額: 今年度は「調査・研究」カテゴリーに限定した公募
1 企画あたりの助成額: 上限 100 万円
3. 助成対象期間: 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日の間に実施される活動
4. 応募受付期間: 2017 年 12 月 12 日～2018 年 2 月 1 日
5. 問い合わせ先: 一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト 助成係
電話: 070-6551-9266(10:00～19:00)
Email: grant@actbeyontrust.org
<http://www.actbeyontrust.org>
<https://www.facebook.com/actbeyontrust>
【12/29～1/5 は年末年始休業】



一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストは、自然環境と人間生活の調和を目的とした市民や NPO・NGO の活動を支援する、独立した民間基金です。問題解決のための具体的・効果的・創造的なアクションを重視し、資金援助、コンサルティング、技術および人材提供、トレーニングなどを行なっています。詳しくは上記ホームページや Facebook をご覧ください。

これまでの企画から

「調査・研究」カテゴリーについて、具体的にはどのような内容が考えられるか、企画例をご紹介します。

これまでに実施された企画は、アクト・ビヨンド・トラスト web サイトの「助成プログラム」(公募助成)をご参照ください。2016 年度までの各助成対象企画について報告書をご覧いただけるほか、同サイトの「助成先活動情報」では、2017 年度助成対象企画の活動状況をリアルタイムで取り上げています。

<http://www.actbeyondtrust.org>



調査・研究カテゴリー:

現行の農薬行政や製薬メーカーの意向から独立し、予防原則に基づいて一般市民・消費者・生産者の保護につながる調査や研究のプロジェクトなど

これまでわかっていることは何か、データが欠落していて調査が必要なことは何か……欧米の研究ではカバーされにくい水田施用による生態系影響や、水道水への残留、シロアリ駆除剤の健康影響など、私たちの生活に直結する問題に関する知見を広く募集します。

学術誌の査読をクリアできる確実な調査・研究を求めますが、学界への寄与にとどまらず、地域コミュニティへの啓発や、市民活動の根拠となるエビデンスとして広く活用されうる、中立で開かれた姿勢を歓迎します。

採択企画例

■ [ネオニコチノイド系農薬の生物への摂取経路と水環境リスクに関する研究及び啓発～金目川水系を例にして～\(2016\)](#)

本研究では、人間生活において身近になりつつあるネオニコチノイド系農薬が、どのような経路(土、空気、水)からヒトへの摂取リスクが存在するかについて、自然環境とヒトを繋ぐツールとして『水環境』を摂取経路例に考察するために、水質調査や魚、マウス、藻などや植物を使用し、ヒトへの摂取モデルの構築(水環境)を行う。

■ [哺乳類末梢・中枢神経系におけるイミダクロプリドの神経毒性に関する薬理学的研究\(2016\)](#)

ネオニコチノイドは昆虫のニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR)を標的とする害虫駆除剤として開発され、そのヒトへの安全性は昆虫 nAChR への高い作用選択性に依拠する。しかし、ヒトで頻脈、血圧上昇、嘔吐、けいれんなど有害事象が報告されている。本企画では、nAChR を発現する副腎髄質細胞、学習・記憶や意欲・運動始動と関連する脳神経細胞(海馬及び中脳)の培養系を用いて、代表的な住宅防蟻剤イミダクロプリドが nAChR を通じてこれらの細胞の生理機能に与える影響を薬理学的に精査する。

■ [空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査\(2013\)](#)

2013 年 6 月、長野県坂城町と千曲市では昨年に引き続きネオニコチノイド空中散布が実施される予定である。そのために、申請者らプロジェクトチームは、落下量と気中濃度を測定し、ネオニコチノイドが散布され飛散したことを科学的に検証することを企画した。分析には極微量分析が可能な LC/MS/MS 法を用いる。並行してアンケート調査を行い、健康被害が顕著に生じた場合は尿分析を実施する。得られた知見を総合的にまとめ、報告書を作成する。報告書は公開し、空中散布是非のための資料とする。

■ [ネオニコチノイド系殺虫剤による水田生態系への影響評価\(2012\)](#)

トキの野生復帰に向けた自然再生が進む佐渡島において、水田生態系におけるネオニコチノイド系殺虫剤の残留・蓄積状況を、高感度・高性能の液体クロマトグラフ-タンデム型質量分析計(LC/MS/MS)を用いて定量評価するとともに、本剤の使用水田における生物量および種多様性を未使用水田と比較することで、水田食物網の構造に与える本剤の影響を実証する。また、その結果を公開シンポジウムにより公表することで、本剤の環境リスクを市民と共有し、脱ネオニコチノイド社会の道筋を描くことを目指す。